

令和6年3月29日

福岡県糟屋郡久山町教育委員会
教育長 重松 宏明 様

学校法人 東筑紫短期大学食物栄養学科
教 授 脇田 哲郎

令和5年度「久山町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の
点検及び評価」に係る意見書

「令和5年度『久山町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書』」の
第5「『令和5年度久山町教育振興計画』の基本目標に基づく主要施策について」に係る意見書を下記の
通り提出いたします。

記

久山町教育委員会では、学校教育について表1に示す通り12の施策に取組まれ、34の具体的内容から
評価を行なっております。

【学校教育】 社会を生き抜く子供を育てる	(1) <u>社会に必要な資質・能力の育成</u>
	施策① 幼児教育の推進
	ア 豊かな生活体験の実施
	イ 12年間で子供を育てる久山の教育を意識した保育活動の推進
	施策② 確かな学力の育成
	ア 学力向上プランに基づいたPDCAサイクルの推進
	イ 主体的な学びを実現する漢字検定、英語検定の実施
	ウ タブレット端末等を活用したICT教育の推進
	エ 職員研修の推進
	オ 家庭教育の手引き配布
	施策③ 体力の向上と食育の推進
	ア 体力向上プラン「1校1取組」
	イ スポーツ推進委員、運動支援者との連携
	ウ 家庭や関係機関と連携した食育の推進
	施策④ 道徳教育の推進
	ア 学校における道徳教育の推進
	イ 地域・家庭における道徳教育の推進
	ウ 道徳講演会の実施
	施策⑤ 読書活動の推進
	ア 学校図書館を活用した読書機会の充実
	イ 朝読書や読み聞かせの実施
	施策⑥ グローバル人材の育成
	ア 1校に1人のALT配置
	イ ALTを活用した課外活動の実施（触れる）
	ウ 英語を活用した体験の推進（親しむ）
	エ 英語学力を向上させる英語塾の実施（学ぶ）

社会を生き抜く子供を育てる 【学校教育】	(2) 多様なニーズに応じた体制づくり 施策⑦ 特別支援教育の環境整備 - ア 臨床心理士（特別支援教育相談員）の配置 - イ 最適な修学のあり方について幼・保・小・中相互の連携と連絡会議の実施 - ウ 町費負担学習支援員の配置 - エ 特別支援教育に関する研修会の実施 施策⑧ 教育相談体制（いじめ・不登校への対応）の環境整備 - ア いじめ防止対策 - イ 専門家による支援 - ウ 不登校児童生徒への登校支援 (3) 信頼される学校づくり 施策⑨ 特色ある学校図書館づくり - ア 久山中学校図書館の整備 施策⑩ 保護者や地域と連携して進める学校づくり - ア コミュニティ・スクールの推進 - イ 地域学校協働本部との連携 施策⑪ 教育施策の充実と学校安全 - ア 各学校・園施設の点検・整備・改修 - イ ICT 支援員を活用した ICT 教育の推進 - ウ 校区安全対策委員会の開催 施策⑫ 働き方改革の推進 - ア 勤務時間・健康管理を意識した働き方改革の推進 - イ 勤務時間内に仕事を終える仕組みづくり
------------------------------------	---

表 1 【学校教育に関する施策と具体的な取組】

1. 社会を生き抜く子どもを育てる【学校教育】の取組について

施策① 幼児教育の推進

ア 豊かな生活体験の実施

豊かな自然や地域、友達と触れ合う活動の指導計画を作成され、年間 13 の実践を行われたことから、意図的、計画的な幼児教育が実践されていることが分かり意義深いと考えます。

イ 12 年間で子供を育てる久山の教育を意識した保育活動の推進

教師観察では、高い評価が得られていることから充実した保育活動が行われていることが分かる。今後は、「自分なりに考えて行動できる」「自分の力を発揮できるようになった」子供とは具体的にどのような子どもの姿を言っているのか、また、そのような姿が見られるようになったのは、どのような保育活動があったからなのか、詳細に説明して欲しいと考えます。

施策② 確かな学力の育成

ア 学力向上プランに基づいた PDCA サイクルの推進

どの学校も児童生徒の学力の向上に向け、それぞれ努力されたことが分かります。指標を達成できなかったという評価がなされていますが、そこに向かってどのような取組みがなされたのか、昨年度と比べてどうだったのかという観点からの評価も必要ではないでしょうか。今後は、日頃の授業の中で学力向上の取り組みをどう進めるのかという観点からの取組みも必要だと考えます。

イ 主体的な学びを実現する漢字検定、英語検定の実施

漢字検定も英語検定も結果だけを示すのではなく、そこに至るまでのプロセスも含めて評価して欲しいと考えます。

ウ タブレット端末等を活用した ICT 教育の推進

久原小学校の実践が全国を対象にした研修会で紹介されたことは素晴らしいことだと考えます。子の取組みが町内の小中学校へ拡充されることを期待します。

エ 職員研修の推進

小学校の教員の教科等研修会への参加や、小中学校の教員の教育センター専門研修の申込者が少ないのはどのような理由からなのか、具体的に調査することで改善策が見えてくるのではないかと考えます。

オ 家庭教育の手引き配布

家庭教育の手引きを読まれた保護者の反応も調査することも必要だと考えます。

施策③ 体力の向上と食育の推進

ア 体力向上プラン「1校1取組」

各学校の体力向上に向けた取組みが功を奏して素晴らしい結果を示していると考えます。

イ スポーツ推進委員、運動支援者との連携

運動支援者は、地域にもたくさんおられるかもしれません。コミュニティスクールの良さを活かして、学校運営協議会などにも働きかけられてはどうでしょうか。

ウ 家庭や関係機関と連携した食育の推進

小中学校とも、学級活動(2)に「食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成」という内容があるので、栄養教諭、学校栄養職員と連携しながら授業を通した意図的、計画的な食育が推進されるようにすることも今後考えて行かれたらどうでしょう。

施策④ 道德教育の推進

ア 学校における道德教育の推進

児童生徒の道德心の高さは、地域と共に道德教育を推進してこられた結果だと思います。公平や社会貢献、国際理解などの道德心の育成は、体験に伴うことによって高まってくると思います。児童会活動や生徒会活動などの機会を活用して体験的に学ぶ場を設定して行かれたらいいと思います。

イ 地域・家庭における道德教育の推進

これまで取組んで来られた事を継続しておられることで成果を上げておられると思います。推進のための組織として、各学校の学校運営協議会との関係を整理されて行かれると持続可能な推進組織ができてくるのではないのでしょうか。

ウ 道德講演会の実施

素晴らしい講師を招聘されたことで、老若男女多くの町民の方々が講演会に興味を持って参加されたことが分かります。

施策⑤ 読書活動の推進

ア 学校図書館を活用した読書機会の充実

本をよく読む児童が増えてきていることは素晴らしいことだと思います。中学生の目標 40 冊は、実現可能な数値なのか、中学生への調査を行なって検討することも肝要ではないでしょうか。

イ 朝読書や読み聞かせの実施

地域の組織を活用した読書活動が積極的に行われていることが分かります。今後は、幼保・小・中の発達の段階に即した読書活動についても研究をされるといいと思います。

施策⑥ グローバル人材の育成

ア 1 校に 1 人の ALT 配置

小学校の外国語活動や外国語で英語が嫌いになっているという話もあります。多面的に児童生徒の外国語に対する意識調査を行なっていくことも大切だと思います。

イ ALT を活用した課外活動の実施（触れる）

教育委員会の働きかけで、積極的に英語に触れる活動が行われていることが分かります。

ウ 英語を活用した体験の推進（親しむ）

英語に親しむ活動は、87%の生徒が肯定的な評価をしていることから初期の目的を達成していると考えます。

エ 英語学力を向上させる英語塾の実施（学ぶ）

触れる、親しむ、学ぶ活動に包括的に取組んで来られた成果が見られるようになったと考えます。

(2) 多様なニーズに応じた体制づくり

施策⑦ 特別支援教育の環境整備

ア 臨床心理士（特別支援教育相談員）の配置

イ 最適な修学のあり方について幼・保・小・中相互の連携と連絡会議の実施

ウ 町費負担学習支援員の配置

エ 特別支援教育に関する研修会の実施

ア～イの評価結果から特別支援教育の環境整備は効果的に推進されていると考えます。

施策⑧ 教育相談体制（いじめ・不登校への対応）の環境整備

ア いじめ防止対策

イ 専門家による支援

ウ 不登校児童生徒への登校支援

いじめアンケートを実施するなど積極的に児童生徒の実態を把握しようとされたり SC や SSW を効果的に活用されたりしておられることが分かります。今後は、学習指導要領に示されたように、学級活動にお

ける児童生徒の自発的、自治的活動を通した学級経営の充実に取組まれ、児童生徒が自らいじめを起こさない資質・能力の育成を目指される事を希望します。

(3) 信頼される学校づくり

施策⑨ 特色ある学校図書館づくり

ア 久山中学校図書館の整備

生徒主体のリニューアル実行委員会を立ち上げられ、具体的な活動に取組まれたことは、これからの時代を逞しく生き抜く生徒の育成に繋がり、非常に意義深いと考えます。今後も、教師のさせたい活動に取組ませるのではなく、教師と生徒が共に話し合って創り上げていくという指導観を持って取組まれる事を期待します。

施策⑩ 保護者や地域と連携して進める学校づくり

ア コミュニティ・スクールの推進

コミュニティ・スクール（以下、CS）の推進に向け、各学校が精力的に取組まれたことが分かります。今後はより一層、学校と地域、保護者が互恵的な関係を維持しながら推進する事を十分に理解した上で、CS 推進を目指される事を願います。

イ 地域学校協働本部との連携

小中学校への教育ボランティアの派遣が積極的に行われたことがよく分かります。今後は、そのことによって、地域にどのような効果が見られたのかという視点からの評価が行われると互恵的な関係が見えてくると思います。

施策⑪ 教育施策の充実と学校安全

ア 各学校・園施設の点検・整備・改修

イ ICT 支援員を活用した ICT 教育の推進

ウ 校区安全対策委員会の開催

行政、地域住民、保護者が一体となって児童生徒の安全確保に努めておられることがよく分かります。また、今後一層活用が進むことが予想される ICT の活用に向けた支援体制も整っていると考えます。

施策⑫ 働き方改革の推進

ア 勤務時間・健康管理を意識した働き方改革の推進

イ 勤務時間内に仕事を終える仕組みづくり

働き方改革は、月毎の残業時間だけでは評価できないところもあると考えます。教師一人一人の自覚と無駄を省く組織的な取組みが求められると思います。これからは、ウィークや町負担教職員配置などの独自の取組みを一層拡充して行かれる事を望みます。

久山町教育委員会では、生涯学習・生涯スポーツについて表2に示す通り5つの施策に取組まれ、11の具体的内容から評価を行なっております。

【生涯教育・生涯スポーツ】 学び合いやスポーツの機会を広げる	(1) <u>学びの機会の充実</u> 施策① 生涯学習推進事業 ア 生涯学習に関する研修会の実施 イ 分館活動の活性化の推進 施策② 文化交流センター事業 ア レスポアール久山の利用促進・事業支援 イ 町民図書館の充実 施策③ 社会教育施設回収事業 ア 社会教育施設の整備，利用促進 イ 社会教育施設の活用促進 施策④ 青少年育成事業 ア 地域アンビシャス運動の実施 イ 子ども会育成会活動の推進 ウ 青少年補導員による巡回パトロールの実施 (2) <u>スポーツ機会の充実</u> 施策⑤ 生涯スポーツ推進事業 ア 各種スポーツ大会を通じた地域コミュニティの充実 イ 久山スポーツクラブの活動の推進
--	---

表2【生涯教育・生涯スポーツに関する施策と具体的な取組】

(1) 学びの機会の充実

施策① 生涯学習推進事業

- ア 生涯学習に関する研修会の実施
- イ 分館活動の活性化の推進

生涯学習に関する研修会や分館活動を活性化する取組について、充実した取組みが行われていると考えます。今後、町民の誰もが参加できる生涯学習を実現するために、学び手である町民の希望を調査し反映していくことも必要だと考えます。

施策② 文化交流センター事業

- ア レスポアール久山の利用促進・事業支援
- イ 町民図書館の充実

レスポアール久山の利用者を増加するために、子育て世代や子供たち向けのプログラムを充実させられたのは効果的だったのではないかと考えます。これらの取組も、今後、町民の希望が叶うような施設にしていけることが大切だと考えます。

施策③ 社会教育施設回収事業

- ア 社会教育施設の整備，利用促進
- イ 社会教育施設の活用促進

社会教育施設の充実に向けた取り組みをされていると考えます。多くの町民が活用できる施設にする

ためには、利用しやすい環境を整備していくことは重要なことだと考えます。今後も、誰もが楽しく安全に利用できる施設の維持に取り組んでほしいと考えます。

施策④ 青少年育成事業

ア 地域アンビシャス運動の実施

イ 子ども会育成会活動の推進

ウ 青少年補導員による巡回パトロールの実施

青少年育成事業として、アンビシャス運動を実施され大幅に参加者が伸びています。また、子ども会育成会への参加を促進する取組みも工夫しておられると思います。CS としての取組みと連携して子ども会育成会への加入促進を図って行かれるのも効果的ではないでしょうか。青少年補導員の協力による青少年の健全育成も、新たな組織と協働することでより効果的になるのではないかと検討してみるのはいかがでしょうか。

(2) スポーツ機会の充実

施策⑤ 生涯スポーツ推進事業

ア 各種スポーツ大会を通した地域コミュニティの充実

イ 久山スポーツクラブの活動の推進

スポーツ大会を通した地域コミュニティの充実が図られていると思います。また、スポーツクラブの加入者も確実に増加しています。これも担当課の努力の結果だと考えます。今後、中学校の部活動の地域移譲等について研究をしていかれると、これから先の久山町の教育を考える上で大切になってくるのではないのでしょうか？

久山町教育委員会では、文化財振興、文化財保護について表3に示す通り5つの施策に取組まれ、9の具体的内容から評価を行なっておられます。

【文化振興、文化財保護】 町の文化を守り、育てる	<u>(1) 首羅山遺跡など文化財の保存・活用</u> 施策① 首羅山遺跡保存・活用事業 ア 首羅山遺跡の調査・史跡の整備・活用 イ 首羅山遺跡国史跡指定10周年記念事業の開催 ウ 学校教育との連携 施策② 文化財保存・活用事業 ア 町内文化財の調査・整備と活用促進 イ 片見鳥遺跡の調査と整理作業・分析 <u>(2) 町民活動の支援</u> 施策③ 文化活動推進事業 ア 文化協会の活動推進 イ 文化活動の機会の創出 施策④ 祭りひさやま事業 ア生涯フェスタ「祭りひさやま」開催支援 施策⑤ ボランティア活動の推進 アボランティア活動の支援・協力
------------------------------------	--

表3【文化振興、文化財保護に関する施策と具体的な取組】

(1) 首羅山遺跡など文化財の保存・活用

施策① 首羅山遺跡保存・活用事業

- ア 首羅山遺跡の調査・史跡の整備・活用
- イ 首羅山遺跡国史跡指定10周年記念事業の開催
- ウ 学校教育との連携

首羅山遺跡の調査・史跡の整備・活用と首羅山遺跡国史跡指定10周年記念事業の開催について、登山客数や来場者数を見る限り効果があったと思いますが、なぜ、そのような効果が見られたのか具体的な取組について示していただくとより明確になると考えます。学校教育とは、積極的な連携ができていると考えます。

施策② 文化財保存・活用事業

- ア 町内文化財の調査・整備と活用促進
- イ 片見鳥遺跡の調査と整理作業・分析

文化財の保存、活用については、今後どのような指標で取組みの評価を行っていけば良いのかについても協議をされてはどうでしょう。

(2) 町民活動の支援

施策③ 文化活動推進事業

- ア 文化協会の活動推進
- イ 文化活動の機会の創出

文化協会の活動や文化活動の機会の創出について、精力的に取り組んでおられることがよく分かります。

町民のための文化活動という観点から、広く町民の方の文化活動への意識調査を実施されると、今後の活動に大きく活かせるのではないのでしょうか。

施策④ 祭りひさやま事業

ア 生涯フェスタ「祭りひさやま」開催支援

「祭りひさやま」の取組みが効果的に行われたことがよく分かります。今後一層の充実のためにも、全ての町民の参加という観点からのニーズ調査を丁寧に行っていくことも大切だと考えます。

施策⑤ ボランティア活動の推進

ア ボランティア活動の支援・協力

教育ボランティアの活動支援に積極的に取組まれたことが分かります。CS は地域と学校を共に活性化するための取組ですので、各学校で行われている学校運営協議会などとの関連について整理されていくといいのではないのでしょうか？

久山町教育委員会では、人権啓発・男女共同参画について表4に示す通り2つの施策に取組まれ、4つの具体的内容から評価を行なっておられます。

【人権啓発・男女共同参画】 互いに認め合う	(1) 人権教育や平和教育の推進
	施策① 人権教育の推進 ア 人権に関する教育及び研修の推進 イ 町民への人権啓発 施策② 平和教育の推進 ア 学校における平和教育の推進 イ 地域における平和教育

表4【人権啓発・男女共同参画に関する施策と具体的な取組】

(1) 人権教育や平和教育の推進

施策① 人権教育の推進

ア 人権に関する教育及び研修の推進

イ 町民への人権啓発

教職員の人権に対する研修会は十分に行われたことは分かります。ただ、教職員や町民の人権意識について具体的にどのようなことを指しているのか、それらがどのように変容しているのかを今後示していくといいのではないかと考えます。

施策② 平和教育の推進

ア 学校における平和教育の推進

イ 地域における平和教育

児童生徒が平和について考え、学ぶ環境づくりに積極的に取組まれたと考えます。ただ、児童生徒の平和に対する見方、考え方を形成していくためには、日常の生活の中にある友達や他の人々との関わりによって体験的に学ぶことも大切だと考えます。今後、平和教育でどのような資質・能力を育成すればいいのか研究を深められることも必要だと思います。

以上、久山町教育委員会の令和5年度「久山町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」について意見を述べさせていただきました。

昨年度に引き続いて評価をさせていただきましたが、今年度は、各項目の評価を数値を用いて行うなど量的な評価が行われており、取組みの効果が分かりやすくなっていました。

今後は、なぜ、そのような数値結果が得られたのか具体的な取組み内容との関係を明らかにする質的な評価との組み合わせも検討していただいてはどうでしょうか。

また、児童生徒や地域住民、保護者等の意識調査から、対象者のニーズを明らかにして、それらの求めにどれだけ応えることができたのかなどの評価が示されてもいいと考えます。

今後は、いい地域がいい学校を育て、いい学校がいい地域を育てと言われるように、コミュニティスクールの更なる充実、発展を期待いたします。さらに、各課の取組みもこのCSの視点から整理していかれると、新しい時代に求められる教育の実現へと向かうのではないのでしょうか。

文責：学校法人東筑紫短期大学食物栄養学科 教授 脇田哲郎